

唐戸市場あり方検討業務について

唐戸市場は老朽化や情勢等が変化していることから、市場のあり方について、方針を決定するための前提となる方向性の整理を行うための資料を作成

1 唐戸市場の工事手法

- ・市場には海水取水やイケスの設置が必要であり、マスタープランに基づき唐戸商店街等とのつながりによるエリアの振興も不可欠であることから、唐戸地区に立地することが望ましい
- ・唐戸市場は鉄筋コンクリートより高品質なプレキャストプレストレストコンクリートでできており、防水や鉄部の劣化はあるが、躯体の健全性は保たれている
- ・経費的に現施設を大規模改修した方が新たな施設を建てるより有利

大規模改修で検討

2 工事スケジュール

- ・単なる新築状態に戻すだけでなく、熱気対策や労働環境、衛生環境の改善に加え、使い方の変化に合わせた区割り変更などを行うなど、基本構想や計画策定に2年以上必要とし、計画を基に実施する基本設計、実施設計も2年要する
- ・場内業者が休業期間を設けずに改修するには、仮設施設の整備と移転が必要であるため、3年程度の工期を要する
- ・脱炭素先行地域に選定されており、整備に補助金が充てられるものの、脱炭素に関連する設備の整備は令和11年度までに完了する必要がある



令和13年度完成を目指したスケジュールで検討

※脱炭素に該当する部分については令和11年度までに完了

3 卸売市場と観光市場を併せ持つ運営方法

- ・卸売市場だけでなく観光市場としての側面を持つため、多数の来場者による設備劣化や観光対応の負荷による本来の市場運営への圧迫など、建物の修繕も含めた様々な課題があることから、その解決に柔軟に対応できる公民連携の手法も検討する

公民連携（PFIやリース方式）を含めた事業経営の体制を検討

4 リニューアル後の唐戸市場のあり方

- ・下関の多様な食文化が交流する拠点となる「唐戸文化市場」として、市民にも観光客にも利用してもらえる市場を目指す

市民利用と観光とが共存する市場を検討

下関市地方卸売市場 唐戸市場「あり方検討」

下関市

2025.3



はじめに
市場建設後 23 年が経過し市場機能、
観光活用、建物の機能などについて、
現状に即していな部分もあることから、
運営方法、大規模改修や建替などの更
新手法、事業費、期間などを検討する
ものです。
これには 2020 年 6 月の卸売市場法の
改正にともなう市場制度の規制緩和も
背景ともなっています。
また、唐戸市場は、あるかぽーと地区
(唐戸エリア) の中で中核となる施設で
あり、エリア全体の運営とも連動、市
場の課題と機能を整理し、将来像の方
向性を検討するものです。

1. 公設卸売市場（しじょう）の現状

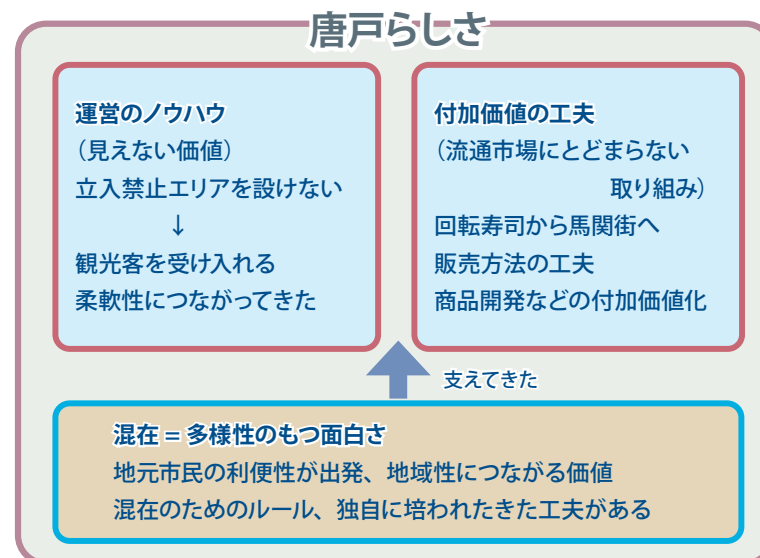
■消費地市場と産地市場を併せもつ混在の魅力

養殖物の相対取引中心の安定した流通形態と信頼、偶然の出会いや発見のある少量多品種の産地市場の混在が特徴であり魅力となっている。

■卸売市場と一般小売が同じ建物内に併設

卸・仲卸と専門業者向けと、地元市民の利用利便性を背景にした一般市民向けのお魚センター（場外市場）が同一建物内に併設。

一般客を受け入れるルールや対面販売のノウハウが、多数の観光客を柔軟に受け入れる土壌となってきた。他には無い特徴。



■取扱量、取扱金額の減少、縮小する卸売業務

2001 年度と 2023 年度を比較すると、市場取扱量は 5 分の 1、金額は 4 分の 1 になっており、市場内関連業者数は約半分に減少。

全国の卸売市場における取扱金額も、2006 年度から 2022 年度で 3 分の 2 に減少。現在、地域の実情にあわせた改修や利活用が全国で進んでる。

○取扱高と業者数の推移

	2001 年度	2023 年度
取扱量	2,444 トン	477 トン
取扱額	2,667 百万円	670 百万円
業者数	223 者	121 者

○平日、日中の営業状況

買出入の減少 → 荷さばきと配達に集約
↑ 負のスパイラル ↓
品揃えの減少 ← 平日の日中は店舗閉店

2. 観光市場（いちば）としての側面

■年間 140 万人のポテンシャル

馬関街を軸に 140 万人の来場者が訪れており、下関の「ふく」とともに、その知名度は高い。一方で、観光客を中心とした来場者は週末に集中するなどの偏りが大きく、交通渋滞なども課題となっている。

■本物の市場体験と対面販売が両輪

間近に市場を体験、立入禁止エリアが無いなど、独自に培われてきた専門業者と一般客の共存。リアルな市場体験と対面販売（馬関街など）が両輪。流通や鮮魚を扱うことの難しさ（専門性）品質や労働や環境と魚食文化を支えてきた公設市場への理解を深める場となっている。

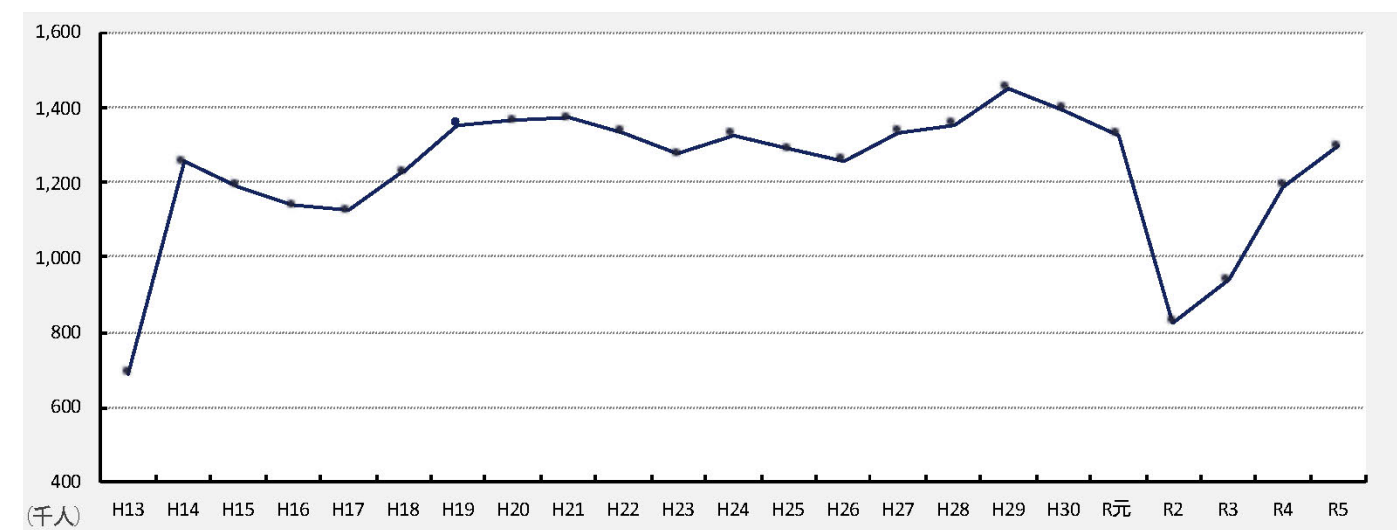


多様なコンテンツと体験の価値

少量多品種、生産者の声を直接聞くことができる沿岸売場

■唐戸市場入場者数の推移

駐車場利用者からの推計で、専門業者の業務入場者数を除外した数字。これ以外に公共交通機関や場外の駐車場利用者が見込まれる。



唐戸市場は、まちと市民と一緒に歴史を重ねてきました。水族館やカモンワーフなどと一緒に、ウォーターフロントの観光体験を「活き活き馬関街」を核に支えています。食文化の社会的な変化や少子高齢化を背景に、全国いずれの市場も取扱高が下がる中、唐戸市場の四半世紀は、いち早く変化に対応し解決策をとってきたとも言えます。

一方で、自動車移動を中心としたライフスタイル、駐車場などから、交通渋滞が課題となっています。海浜立地は、塩害の影響も大きく、錆などの劣化も喫緊の課題です。

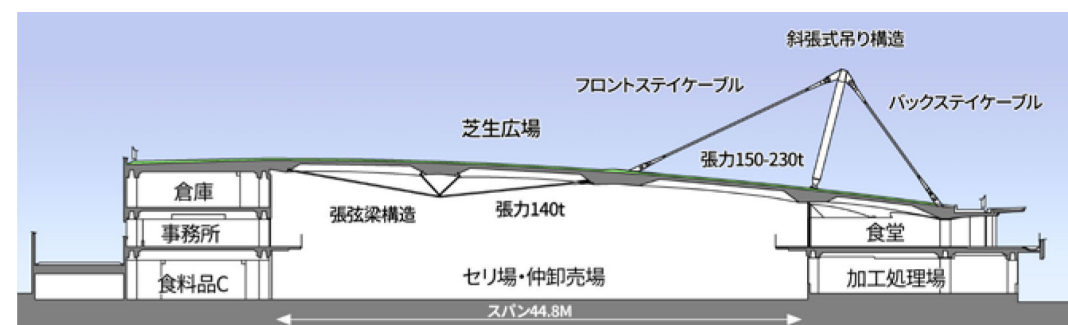
100年にわたって受け継がれてきたこの場所は「まちの価値」となっています。



3. 建物の性能と状態

■ 建物は他に類をみない無柱空間と屋上広場が特徴

スパン44mの無柱空間、柱の大きさは最小限。気積の大きな天井の高い空間は、二酸化炭素濃度を緩和。見学デッキは観光客が賑わいを実感できる映えスポット。屋上緑化は環境への対応にいち早く取り組む。リピーターなど活用が成熟、生活の一部になっている。



賑わいを実感できる場所がある

■ 性能の高いPCaPCコンクリート造と1.25倍の高い安全率

構造は、プレキャスト・プレストレストコンクリート構法、一般RCより高品質で高耐久。橋梁や高速道路などで採用。「重要度係数」は、公共性が高く災害時などの社会的な役割を考慮され「1.25」で設計されている。(一般は1.0)

■ 躯体は健全

定期点検での指摘は仕上げに集中、塩害の影響が大きく防水や鉄部を中心とした仕上げの劣化は見られるが、更新によって使い続けることは可能、躯体に影響を及ぼす保全是喫緊の課題となっている。

- 材料
プレキャストプレストレストコンクリートの仕様
 - ・コンクリート強度: $F_c=50\text{N/mm}$ 以上
 - ・スランプ: $S=8\text{cm}$
 - ・水セメント比: $W/C=32\sim35\%$

- 重要度係数 = 1.25
災害拠点建築物の設計ガイドラインに基づく重要度係数がII類に該当する唐戸市場は災害時などの社会的な役割が考慮され「1.25」として設計されている。

4. 複合する課題

■ 増える観光客の対応を市場会計でまかなう行政の枠組み／逼迫する予算

観光機能は卸売市場の主要な機能ではなく、運営とそれに関わる負担が大きい。駐車場関連、各所の使用頻度増による故障、トイレの清掃頻度や消耗品費の増加など。

特別会計の収入源は観光負荷に関わらず面積(使用料)に応じた固定額。観光利用の増加から慢性的な渋滞発生、歩行者の安全確保対応の警備員などの観光対応にかかる諸費用が、本来の市場運営を圧迫。

【2024年度予算】

	歳入	歳出	
取扱額割使用料	2百万円	人件費等	43百万円
売場施設等使用料	118百万円	光熱水費	108百万円
その他施設使用料	103百万円	修繕料	10百万円
実費収入	86百万円	委託料	100百万円
その他	92百万円	工事請負費	75百万円
小計	401百万円	消費税	27百万円
市債	75百万円	その他	24百万円
一般会計繰入金	215百万円	公債費	304百万円
合計	691百万円	合計	691百万円

※下関市では総務省の繰入基準以外のルールを作り市場を維持

■ 交通渋滞と様々な不均衡

駐車場は週末や観光シーズンに混雑がピークで、深刻な交通渋滞は特異日に発生。あるかぽーと地区の開発に伴う交通需要増加も想定され、段階的な対策と運営改善が必要。

隣接カモンワーフも市場と同様の課題、知見の共有による総合的な取り組みが必要。一体運営(ダイナミックプライシングなど)と条例の検討を重ねて行うことが渋滞対策として求められる。

○ 経費の増大に対する収入

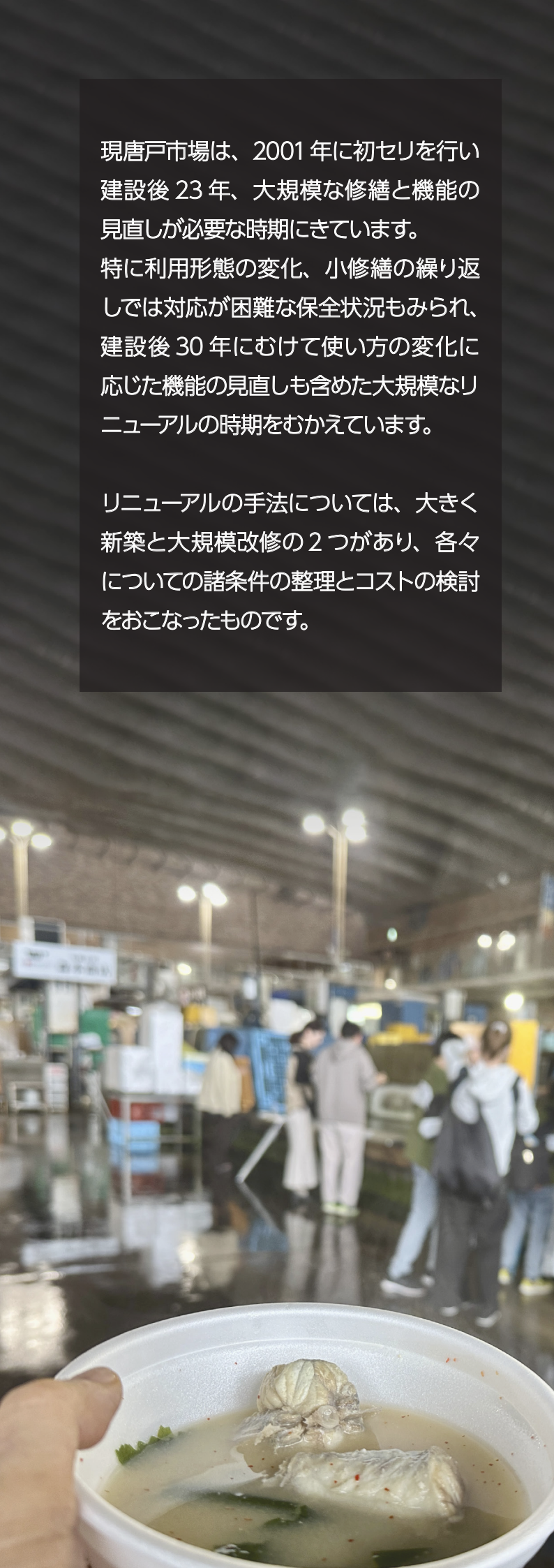
- ・観光客の来場による設備の使用頻度、消耗品費
→観光に対する経費増加
- ・特別会計の収入は駐車場使用料以外ほぼ固定額

○ 駐車車両の増加

- ・3連休や大型連休には慢性的な渋滞
- ・車両のスムーズな通行のため警備員の費用支出
- ・渋滞解消のため大型バス臨時駐車場を実験的に開放

○ 市場特別会計での対応

- ・市場特別会計は卸売市場の運営にかかる会計であるが
上記の経費も負担している



現唐戸市場は、2001年に初セリを行い建設後23年、大規模な修繕と機能の見直しが必要な時期にきています。特に利用形態の変化、小修繕の繰り返しでは対応が困難な保全状況もみられ、建設後30年にかけて使い方の変化に応じた機能の見直しも含めた大規模なリニューアルの時期をむかえています。

リニューアルの手法については、大きく新築と大規模改修の2つがあり、各々についての諸条件の整理とコストの検討をおこなったものです。

5. リニューアルの時期をむかえた建設後 23 年

■観光客の滞在場所不足

必要な機能やスペースは、アンケート・観光動体調査から「休憩・飲食スペース」に集中。見学デッキなどの利活用は、自主運営の好事例。

■夏期の空調（当初想定されていない利用）

当初営業時間の想定は、深夜から午前10時前後。一方、観光客の出入りは、午前9時頃から午後3時頃までに及び、熱気対策は喫緊の課題。労働環境、衛生上も改善が必要。

- 1) 空調が必要な時間帯に及んでいる
- 2) 多数の来場者による熱負荷の増
- 3) 冷蔵ショーケースや調理室の室外機排熱
- 4) 近年の猛暑、気候変化

■大規模な修繕が未実施

日常の小修繕は行われてきたが営業休止が必要となる大規模な修繕は未実施。特に使用頻度の高い床やインフラ、屋根防水、金属部の錆、大型扉は、使い方の変化や区割りの変更とあわせて、単なる新築時に戻すだけではない改修が必要。

運営や管理体制は負担増もあり、交通アクセスの改善などを含めた周辺との連携、新しい管理運営組織体制の構築が求められる。

■新築と大規模改修の比較

大規模改修と別敷地に建物を新築する場合、現建物を解体し新築する3つを想定。大規模改修、新築（別敷地・同敷地）の比較、工事費の検討、躯体が健全であることから、大規模改修が有利。別敷地新築の場合、あるかぼーと内で同規模の施設整備は、岬之町（17,000m2）が候補地となる。

工事期間中の駐車場等の条件は、敷地が離れた場合、駐車場の台数確保、アクセスなどの道路条件、周辺に駐車場課題などから大規模改修を実施することが有利となる。

□大規模改修と新築に関わる事業費の比較

	大規模改修	新築 （別敷地）	新築 （同敷地）
事業費	低	中	高
土地取得	不要	要	不要
仮設場所	要	不要	要
工事期間	中	短	長
引越し回数	2	1	2
解体	不要	要	要
駐車場台数	△	×	△
海水取水	○	×	○
生け簀整備	○	×	○
インフラ	○	×	○
近隣施設※1 との振興	○	×	○
総括	○	△	△

※1：亀山八幡宮や唐戸商店街、その他唐戸エリアの諸施設

6. 営業しながらのタイムテーブル

タイムテーブルは、新築時に復する大修繕ではなく新機能の導入、運営体制、環境対応などの要件を総合的に考慮して想定したもの。逐次アップデートが必要。

■休業期間を設けない仮設を考慮

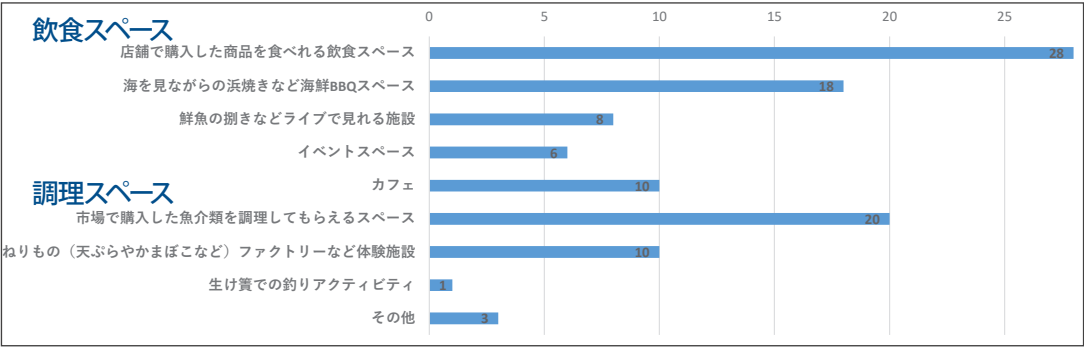
工事期間中に仮設建物での営業継続が可能となることを条件とした。別敷地・同敷地共に、新築の場合は仮設建物は不要となるが、地盤対策やインフラ整備のほか関係箇所との調整に時間を要する。（仮設期間は敷地条件から引越しは2回程度と想定。）

■脱炭素先行地域との連携

脱炭素先行地域は、2050年カーボンニュートラルに向けCO2排出の実質ゼロを実現する先行都市。全国100か所の脱炭素先行地域が2030年度までに実行実現予定。

下関市は「地域経済のエコロジカルな循環による海峡（環境）都市づくり」、2024年度に採択され（下関市環境部）、唐戸市場は、主要な対象施設総事業費の一部、数億円を予定。R11年（2029）へ向け5カ年が実施期間。

□今後の市場機能へのアンケート



□あり方検討から設計・工事のタイムテーブル

		R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)	R14年度 (2032)
あり方検討業務	基本方針、立地、施設整備方法の検討									
基本構想・基本計画	基本計画、事業方式設備計画、運営手法									
設計業務	基本設計、実施設計許可、工事監理									
工事	仮設工事、移転改修工事						工事着工			竣工
維持管理・運営業務										
事業者選定・業務発注										
社会実験										
脱炭素先行地域スケジュール								脱炭素先行地域工事完了		



敷地については、岬之町から東駐車場の間、あるかぽーと地区に立地することを前提としました。これは市民の台所としての歴史、観光を背景とした集客、「唐戸らしさ」と言われる地域が醸成してきた価値、市街地立地の特性を今後も維持し展開の可能性への期待がよせられていることから、その前提としています。

この内容は、あるかぽーと・唐戸エリアマスタープランにおける「推進会議」「デザイン会議」で並行して議論が重ねられたもの、市街地から外れた産業系の埋立地等への移転は対象外となります。

7. 仮設立地の検討

現市場の敷地面積は市場棟 10,751m²、駐車場棟 4,631m² の合計 15,382m² 同程度の規模を前提としている。市場の営業継続から、工事期間中の仮設建物が必要となります。ここでは仮設用地についての可能性を検討したもの。

■比較表について

項目は、面積や規模、規模に応じた引越しの回数の他、以下を整理したもの。

- ・波及効果 ・周辺と市民の関係 ・周辺と観光客の関係
- ・交通、ウォーカブル ・関係者・合意形成
- ・インフラなどの整備

また渋滞対策、アクセスルートの調整が条件となる。

■立地についての課題整理

- 1) 仮設営業と現市場の関係
- 2) 地盤・海水利用、インフラ条件などを比較。
- 3) 駐車場の運営
- 4) 交通、下関駅や各施設間の移動手段
- 5) 後背地との連続性、縦道の重要性

工事中は、仮設営業を実証実験として位置付け、リニューアル後の賑わいを創出する取り組み、運営方法の検討期間となることが期待される。

□候補地検討図・表（新築および仮設・連携など）



	岬之町	A地区	1号棟跡地	カモンワーフ	駐車場棟1F	東駐車場
規模（敷地・概算）	17,000㎡	8,000㎡	1,200㎡	5,500㎡	3,000㎡	4,000㎡
改修後	更地返還	更地返還	転用／更地返還など	賃借／一部市場機能補完等	復旧	更地返還
引越し回転数	1回転	2～3回転	2回転（組み合わせ）	2回転（組み合わせ）	2回転（組み合わせ）	2回転（組み合わせ）
市場のあり方 立地と歴史継承	唐戸から場所が離れるため連携に工夫が必要 まとまった土地（流通課題）	暫定利用としての事業性 市場と離れるため連携に工夫が必要	仮想定（現駐車場・民間所有地） 旧市場機能 唐戸商店街と市場を繋ぐことができる場所	仮想定（現事業あり） 一体整備でエリア全体のイメージが一新される	現駐車場棟1階に仮設 仮設面積不足の補足機能 カフェなどの設置による拡張	現置き臨時駐車場に仮設 仮設面積不足の補足機能 カフェなどの設置による拡張
波及効果	従来の都市構造を大きく変化させる場所 周辺施設の再配置も必要となる 駅前地区と唐戸エリアの中間点	仮設利用地として流動的なイメージが強化される 大きなイメージ変化は難しい（仮設）	賑わいの連続性が期待できる 仮設期間をいかしたフットワークの軽い試みが可能	賑わいをつなげることが出来る 仮設期間をいかしたフットワークの軽い試みが可能	大きなイメージ変化は難しい（仮設）	大きなイメージ変化は難しい（仮設）
周辺と市民	アクセスは自動車中心 豊前田と新ホテルを繋ぐ立地	アクセスは自動車中心	徒歩中心のアクセス・周辺駐車場利用 商店街活性化の可能性	商店街活性化の可能性 駐車場の改修	仮設期間中の新しい体験	仮設期間中の新しい体験
周辺と観光	新ホテルと近接 唐戸エリアから離れる	新ホテルと近い 唐戸エリアからやや離れる	徒歩中心のアクセス・周辺駐車場利用 商店街への波及が期待できる（国道横断の工夫が必要）	市場との相乗効果 商店街への波及が期待できる（国道横断の工夫が必要）	導入機能による新展開 機能分散と場所の分かり難さ	機能分散と距離が延びる
交通 ウォーカブル	アクセス要検討 ウォーカブル△	アクセス要検討 駐車場不足 ウォーカブル○	国道横断が課題 搬出入難（機能による） ウォーカブル◎	駐車場アクセス 国道横断が課題 搬出入難（機能による） ウォーカブル◎	駐車場間との安全管理 ウォーカブル◎	駐車場との安全管理 ウォーカブル△ 改修工事ヤードとの調整
関係者 合意形成	市場関係者の事業形態にも大きな変化 諸調整が必要 要港湾調整	期間中の現市場との往来が難点 要港湾調整	民間所有者との調整	市場との一体整備で配置と最適化を図ることが可能 現駐車場部を含めた一体整備 現事業者との調整	港湾道路との調整 アクセス方法に課題	国道から直接進入可能などの交通調整
整備	道路整備 地盤調査・必要に応じて改良等 海水取水 市場独自のインフラ整備の必要大	地盤調査・必要に応じて改良等 海水取水 市場独自のインフラ整備の必要大	海水取水 市場独自のインフラ整備は難しい 崖地の調査	海水取水 市場様からの供給ルートなど検討	給排水などのインフラ費用（海水など必要か） 上階との交差などは仮設通路などで対応？	給排水などのインフラ費用（海水など必要か）
その他	まとまった土地、他の施設計画との比較などが必要	整備期間と事業性が課題となる	規模・単独では難しい 物販・飲食系が中心となる 都市計画、海側と後背地の分断解決	公民連携による組織づくりと両輪	仮設使用 機能追加は、複合施設法規、用途変更など要調整	仮設使用
仮設費用	最大	大	中～小	大～中	中～小	中～小
インフラ整備費用	大	大	中 商店機能対象	小 現市場との連携	中 現市場との連携	大～中 現市場と連携
土地関係	賃借料要調整	賃借料要調整	民間所有 要賃借料等	市所有（建物・要賃借料等）	市所有	賃借料要調整



8. 卸売市場の設置、施設整備から運営の役割区分の整理

■ 市民と観光双方の運営を柔軟に担うために

唐戸市場の特徴は、業者向けの場内市場と一般市民向けの小売市場の混在であり、唐戸独自の運営ノウハウが培われてきた。一方で深夜から日中までの長時間にわたる開場時間、多数の来場者による設備劣化や観光対応の負荷による本来の市場運営への圧迫など、建物の修繕も含めた様々な課題が積み重なってきている。

転機をむかえる全国の公設市場では、余剰地の活用や民間化の新しい取り組みも見られ、唐戸でも課題と解決に柔軟に対応できる公民連携の新しい運営組織の検討も必要。

新しい「唐戸市場の組織体（市を含む特別目的会社など）」による運営が「あるかぽーと」全域の活性化につながる端緒となり、唐戸エリアへ波及することが期待される。

■ 業務と役割の区分と今後の担い手

市場における施設整備や運営などの一連の事業を、各項目と段階ごとの役割区分を表に整理した。今後、役割区分に応じた担い手の組み合わせを検討する際の材料とする。

1. 卸売市場の設置者及び施設の所有者

歴史と立地の公益性、柔軟性の高い運営から、設置者及び所有者は、下関市が合理的。

2. 施設整備および資金調達

引き続き下関市による施設整備（改修）が有効な方法で、設計や工事を従来型の発注方式、DB方式のほか、PFIやリース方式等により民間による資金調達、費用負担を長期に平準化する方式も考えられる。

3. 維持管理及び運営

現在は直営方式で市場や駐車場の運営維持管理がされている。本施設整備を契機に、事業の効率化から、一部の民間への移管も考えられる。維持管理に関しては個別に業務委託する方式から運営も含めた「指定管理者制度」による包括的な契約、PFI等の施設整備や資金調達までの民営化も選択肢になる。

□ 卸売市場における諸業務と役割の区分

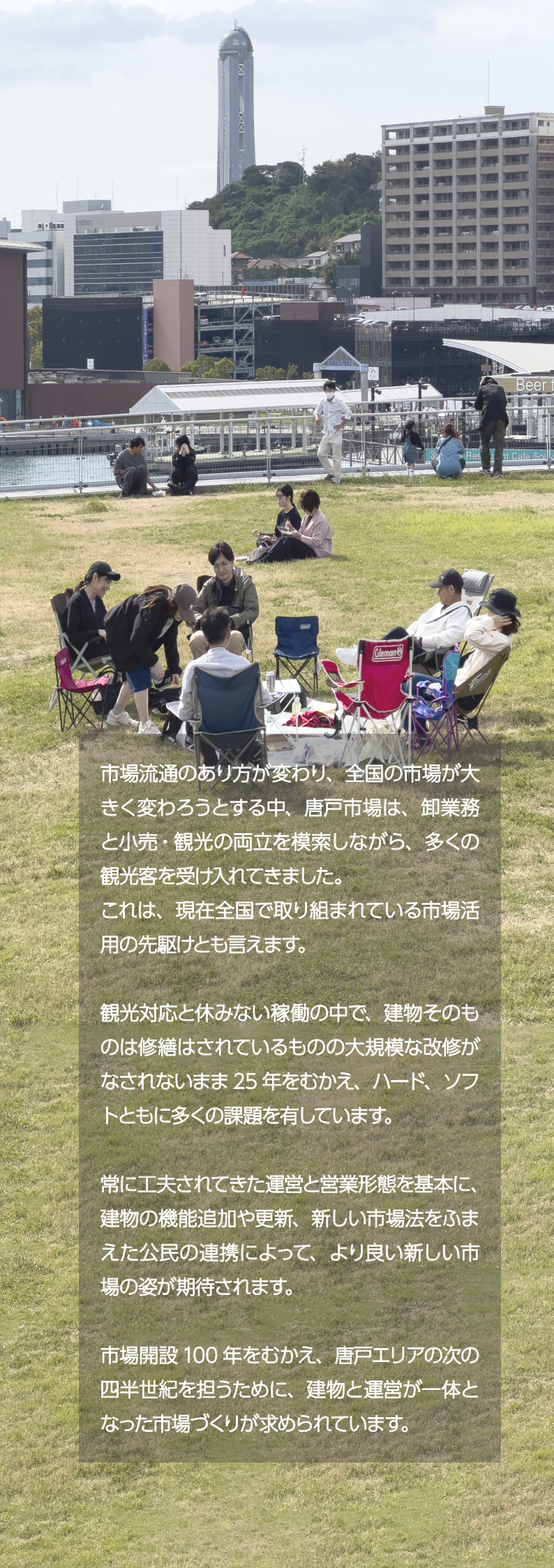
	主な内容	方向性
設置者 (開設者)	・卸売市場の設置者	下関市：法改正により民間でも開設可能になったが歴史や立地から引き続き下関市が合理的
施設所有	・施設の所有者	下関市：民間所有の事例もあるが、改修のため現実的でない
施設整備	・設計 ・工事監理 ・建設工事 ・付帯設備	従来型方式のほか、PPP手法などの検討も必要
資金調達	・施設整備費用の調達 ・補助金等の活用	下関市または、整備手法によっては金融機関等となる
維持管理	・建物、設備保守 ・清掃、衛生管理 ・廃棄物処理 ・防火管理 ・警備 ・小修繕等	主な各内容を、引き続き下関市で行うか、民間、公民組織などで、管理・運営が可能かについて、項目ごとに、整理、検討が必要
運営	・使用許可 ・利用料徴収 ・人退場管理 ・駐車場管理 ・調査、統計 ・PR、イベント等	

公設市場と観光いちばの共存が特徴の唐戸市場は、市のおこりの頃からまちと一緒に歴史を重ねてきました。地元市民の利便性だけでなく、魚食を身近なものとして生活の一部に取り込んだ「豊かな魚食文化」を育んできたと言えます。

持続可能なツーリズムでは、地域の産業と深く関連、特に農林、漁業の地元産業を観光に結びつけることで、地域経済の持続可能な発展に寄与するとされています。観光客は、市民の姿を通して地域と文化への理解が深まります。

□ 期待される街への波及効果のイメージ





市場流通のあり方が変わり、全国の市場が大きく変わろうとする中、唐戸市場は、卸業務と小売・観光の両立を模索しながら、多くの観光客を受け入れてきました。これは、現在全国で取り組まれている市場活用の先駆けとも言えます。

観光対応と休みない稼働の中で、建物そのものは修繕はされているものの大規模な改修がなされないまま 25 年をむかえ、ハード、ソフトともに多くの課題を有しています。

常に工夫されてきた運営と営業形態を基本に、建物の機能追加や更新、新しい市場法をふまえた公民の連携によって、より良い新しい市場の姿が期待されます。

市場開設 100 年をむかえ、唐戸エリアの次の四半世紀を担うために、建物と運営が一体となった市場づくりが求められています。

9. 観光体験の質向上と市民利用の回復

■ 四半世紀の歴史から次のビジョン「唐戸文化市場」へ

下関の海岸線は長い間、コンテナヤードや倉庫で埋められ、旧市場と唐戸棧橋が海に顔を出す程度で、日常生活からは隔離されていた場所だった。市場と水族館、その後、はい!からっと横丁がオープン、下関のウォーターフロントは観光客を中心に賑わいのあふれる場所となった。

一方で水際場所は、街とのつながり、地元市民にとっては歴史も浅く、まだ日常の一部になっていない。

一般買い物客への分け隔てのないサービスにより、唐戸市場は市民にとって身近な魚食を支えてきた。これは決して一朝一夕でつくられたものでなく、長い時間をかけて買い物客と場内業者双方が培ってきた唐戸の文化である。

これらを背景にした海峡ならではの文化を含めた体験が、豊かな海岸線と市民をつなぎ、観光客のより深い体験を醸成する。

■ 唐戸市場の目指す将来像の整理

卸売市場が抱える社会課題とそのゴールを 5 つのカテゴリーに分類、唐戸市場における【方向性】を、具体的な【施設整備検討におけるポイント】と【運営検討におけるポイント】に分けて整理したもの。今後、内容の精査とともに過不足などを補っていくものとする。

新しい市場の ビジョン

【方向性1】
市民利用と観光いちば
の共存

【施設整備検討ポイント 1】

- ・新機能の導入
- ・観光客の居場所
- ・空調等の環境整備

【運営検討ポイント 1】

- ・開場時間や運営の工夫
- ・市場買出しを地元の食習慣として取り戻す
- ・観光客滞在コンテンツ拡充

生産者や買出人の ニーズに応える市場

【方向性2】
市場機能の高度化

【施設整備検討ポイント 2】

- ・水産品取扱機能の向上
- ・加工機能の拡充検討
- ・空調等の環境整備

【運営検討ポイント 2】

- ・観光体験の深さを実現
- ・安全安心な食材の提供
- ・基幹インフラとしての市場

地域ににぎわいを 生み出す市場

【方向性3】
周辺施設との連携

【施設整備検討ポイント 3】

- ・市民利用の回復
- ・周辺施設と連携
- ・駐車場の課題の解決を図る

【運営検討ポイント 3】

- ・周辺施設との事業の一体化
運営の連携
- ・隣接する市街地の隠れた
ポテンシャルの掘り起こし

経営の強化による 持続可能な市場

【方向性4】
新たな運営と事業方式

【施設整備検討ポイント 4】

- ・新しい運営に必要な機能の
検討

【運営検討ポイント 4】

- ・公民連携による運営組織
- ・地元主体の運営の担い手となる
組織づくり
- ・運営ルールの見直し
- ・使用料体系の検討

社会の要請に 応えられる市場

【方向性5】
環境/災害への対応
ICT/ネットワークの拡大

【施設整備検討ポイント 5】

- ・非常時を含むインフラ整備
- ・脱炭素先行地域／ハード整備

【運営検討ポイント 5】

- ・ネットワーク拡大
サービス拡充
- ・生産者、需要者、産官学など

唐戸文化市場

活きた市場



これまで通りの本物の市場としての
営み・取引がある。

クリエイティブな食文化街



新旧和洋食がなんでもある 下関
のいまの食シーンの集積

まち・地元市民・風物詩



市場が日常となっており、風物詩
としても楽しまれている

下関市 農林水産振興部
市場流通課（唐戸市場内）
083-231-1440